

# 屋内緑化コンクール 2015 取組部門 一般社団法人日本花普及センター会長賞

(フリガナ)	アーバンファーム
取組名称	「アーバンファーム」
所在地	東京都千代田区
応募施設	事務所
取組時期	平成 22 年 3 月 2 日～

## ○取組の概要

社員自らが行う維持管理方法

アーバンファームの植栽管理は、難易度の高い高所作業等を除いては、ほぼすべて自社の社員（障がい者含む）で管理を行っている。水耕栽培の管理や剪定、受粉などのやや専門的な作業については、農業専門のグループ会社（応募者）のスタッフが栽培技術を一から学び、対応している。植物工場を始め人工光源での植物栽培に関心を持つ方も多く見学希望者には、社員が設備や技術なども含め説明を加えながら案内するなどの対応を無料で行っている。来客層は一般観光客、農業関係者、学生、その他海外からの来賓など多岐にわたっており、その数はオープン以来 30 万人以上にものぼり、農業や室内緑化、壁面緑化に関する情報発信をすることにもつながっている。その他、大学・高校・中学校からの就業体験も積極的に受け入れ、また、アーバンファームの屋内管理をより詳しく知ることができる有料サービスの提供も行っている。

## ○取組のシステム（運用）

アーバンファームの植栽管理は、難易度の高い高所作業等を除いては、ほぼすべて自社の社員（障がい者含む）で管理を行っている。アーバンファームを通して緑を育むことの大切さ（環境教育・農業教育）を学んでもらうことを目的としている。

■1・2 階の手灌水：障がい者社員と農業専門のグループ会社（応募者）のスタッフが分担して手灌水を行っています。障害者と健常者が一緒に生き活きと働くオフィスビルを実現している。

■バルコニー（一部）・各階の室内植栽の手灌水：各階・各フロアの社員が分担して手灌水や枯れ葉取り等を行っている。このような作業を通じて普段なかなか一緒に仕事をする機会のない部署、グループ各社とのコミュニケーションがとれる良い機会になっている。

■植替え計画や植替えの実施：植替え計画や植替え、日々の施肥等は農業専門のグループ会社（応募者）のスタッフを中心となり実施している。

■その他：社内の「社会貢献委員会」を中心に、バルコニー（壁面緑化）の栽培管理の一環として、周辺の清掃活動を定期的に行っている。

## ○取組の具体的活動内容

※取組のシステム（運用）をご覧ください。それ以外を下記記載致します。

■キーワードの1つである「健康」：「植物を社員が育てる」「花や緑の空間」をオフィス内に提供することで、社員が仕事や職場で抱える様々なストレスを軽減し、社員間のコミュニケーションがさらに図られ、社員が生き活きと活躍できる環境を整備している。

■収穫：アーバンファーム内で収穫した野菜については、出来る限り、地下 1 階及び 9 階の社員食堂にて利用し、「ビル（地）産・ビル（地）消」に取り組んでいる。特に葉物野菜は年間約 2 万株程度収穫が可能となっており、その他の野菜も含めて、採れたての新鮮野菜がブッフスタイルで社員に提供され、健康維持につながっている。

■フロア内に植栽持ち帰りコーナーを設置等：フロアのエレベーター前などに、ポットに土を入れ播種し持ち帰ることができるようなコーナーを設けている。また、希望者には、アーバンファーム内で育てている植物の挿し木も提供し、自宅での癒しに繋げている。

■年間を通じての無料案内

植物工場を始め人工光源での植物栽培に関心を持つ方も多く見学希望者には、社員が設備や技術なども含め説明を加えながら案内するなどの対応を無料で行っている。集客については、農業専門のグループ会社（応募者）のホームページ、フェイスブックにて行っているが、一度見学に来られた方の口コミによる波及が効果的に機能している。

■大学・高校・中学校・障がい者支援団体からの就業体験も積極的に受け入れを行っている。受入日数は 1 日から、長期の場合では 1 ヶ月程度の受入も行っており、個人の就業経験とともに、農業の新しい働き方についても触れて頂いている。

■アーバンファームの屋内管理をより詳しく知ることができる有料サービスの提供も行っており、見学者のリピート及び満足度向上につなげている。



## ○取組の波及効果

■アーバンファームについてのアンケート結果では、8 割前後の社員が「ストレス軽減につながっている」「癒しを感じる」と回答している。

■年間を通じて見学希望者には、社員が設備や技術なども含め説明を加えながら案内するなどの対応を無料で行っており、来客層は一般観光客、農業関係者、学生、その他海外からの来賓など多岐にわたっており、その数はオープン以来 30 万人以上にものぼり、農業や室内緑化、壁面緑化に関する情報発信をすることにもつながっている。

## ○その他

屋内緑化の設備だけでなく、その設備を活かして、自社の社員が栽培に携わることができる仕組みを作り運用することで、「健康」「ストレス軽減」「癒し」「環境教育・農業教育」「就業体験」「情報発信」等様々な相乗効果が生まれていると考える。

